

# 学校関係者評価報告書

2021 年度

学校法人 村川学園

大阪調理製菓専門学校



## 【目次】

1. 目的
2. 2021年度学校関係者評価委員会開催概要
3. 学校関係者評価委員による自己点検・評価の重点評価項目への提言

## 1. 目的

学校関係者評価委員会（以下、当委員会）は、大阪調理製菓専門学校 学校関係者評価委員会規程に基づき、大阪調理製菓専門学校（以下、本校）の自己点検・評価の結果について客観性と透明性を高めるとともに、学外の関係者から専門的な助言を得るため、外部評価を実施する機関として当委員会を組織した。当委員会は、本校の自己点検・評価を資料として、自己点検・評価委員会の内部評価を参考にし、さらに関係教職員との具体的な意見交換等を通して、本校の学校運営・教育活動について検証・評価及び助言を行うことを目的として実施している。当委員会委員は本校の教育理念を理解し、人材育成等に精通した学外の関係者の中から校長が選考し、委嘱している。

## 2. 2021年度学校関係者評価委員会開催概要

### 第1回

#### ① 開催日時 オンライン開催

2021年8月10日(火) (分科会) 10:00～11:30  
(全体会) 12:00～15:00

#### ② 場所

大阪調理製菓専門学校 3階会議室

#### ③ 出席者（敬称略）

山下 貴之(泉大津市総合政策部 地域経済課 総括主査)  
真崎 美樹(高石市教育部 こども家庭課)  
川邑 千佳(大阪調理製菓専門学校 学生保護者)  
笹田 智(卒業生)  
西平 直之(ホテル日航関西空港 管理部長)  
芝野 茂夫(レストラン・シャンソニエ代表取締役グランシェフ)  
西山 晋(ボンヴィラージュ・オゼ オーナーシェフ)

### 第2回

#### ① 開催日時 オンライン開催

2022年3月23日(火) (分科会) 10:00～11:30  
(全体会) 13:00～16:00

② 場所

大阪調理製菓専門学校 3階会議室

③ 出席者（敬称略）

山下 貴之(泉大津市 総合政策部地域経済課総括主査)

真崎 美樹（高石市教育委員会 こども家庭課）

植原 和彦(岸和田市教育委員会 教育長職務代理)

川邑 千佳(大阪調理製菓専門学校 学生保護者)

笹田 智(卒業生)

吉田 直子(有限会社TK企画 管理部長)

3. 学校関係者評価委員による自己点検・評価の重点評価項目への提言

(1) 教育理念

（自己点検評価より抜粋）

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

明確に定めており、時代の変化に対応しながらその内容を見直している。

1-2 学校の特色は何か

業界のニーズに合わせて実践授業を豊富に実施できるよう、教育環境を整えた。

①現場そのもの学びの環境

②豊富な実習量

③選べる専攻実習

④教員が全員現場経験者

1-3 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。

2025年までの中長期達成目標を掲げている。

【現状の課題点】

現状は充実した設備やカリキュラム等の教育環境は整備されており、理念・目的・育成人材像も教職員間、学生間にも周知されている。

泉州美食 EXPO のプロジェクトについては、行政、団体、生産者、企業との共創をより具体的なカリキュラムとするスキーム作りが必要である。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 学生たちはどういう力が必要かという、自分の人生設計の一部を育てること。この学校のことを誇りになった。校是について、夢を見続けようとするが、夢は追いつけるものではないか。

- ② 毎朝の学園三訓は、職についてからも忘れることがない。現場で働く教職員が覚えて言えるような学校でなければならない。学生を引き寄せる力にも繋がる。今後も続けてほしい。

## (2) 学校運営

(自己点検評価より抜粋)

2-4 運営方針は定められているか

学則に明確に定めている。

2-5 事業計画は定められているか

明確に事業計画を定めている。見直しは毎年行われ、変更が生じる場合は理事会からトップダウンで教職員に周知している。

2-6 運営組織や意思決定機関は、効率的なものになっているか

運営組織、意思決定機関は学校法人 村川学園としての組織図で明確である。

2-7 情報システム化による業務の効率化が図られているか

専任職員にはパソコンが貸与され、業務効率化を図るシステムも導入している。

### 【現状の課題点】

職員の能力開発のため教職員研修（FD研修・SD研修）を実施した。引き続き内容の精査とともに、研修の重要性を教職員へ伝えることが必要である。

### 【学校関係者評価委員からの提言】

- ① セクションリーダー制度はとても良い。どんな内容である、問題をどう話し合っているのかを知りたい。

継続していただき、実のあるものにしていただきたい。

- ② 教員ごとに教えてもらえる内容が同じだと学生にとって良い。

- ③ メンタル面などは企業では面談などを行い解消している。

### (3) 教育活動

(自己点検評価より抜粋)

3-8 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向づけられているか

教育目標は業界のニーズに合わせて方針を立て、人材育成をしている。

3-9 カリキュラムは体系的に構成されているか

体系的にカリキュラム構築を実施している。また、毎年見直しを行う。

3-10 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか

調理師養成施設 告示による授業に準じて、行なっているため適切である。

3-11 授業評価の実施・評価体制はあるか

授業アンケートを実施している。

3-12 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか  
各科目を教授するために必要な人材を揃えている。

3-13 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

成績評価の基準は、学則、学則施行細則に準じて行なっている。

3-14 資格取得の指導体制はあるか

調理師免許においては、卒業と同時に取得資格できるため、教育内容には十分留意できている。他関連資格についても積極的に資格取得をするよう指導している。

製菓衛生師科・製菓総合本科において、製菓衛生師免許は卒業時、もしくは1年次終了時に授与するものとするが、学内模試、対策講座を行い、本番に十分に備えられる対策を練っている。

#### 【現状の課題点】

教育活動の課題点と解決方法に関しては、教育課程編成委員会の本分であり、教育現場の意見を汲み取りながら業界のニーズや動向を把握し、適格な教職員の育成・教育内容の改善を図る。そのための今後の取り組みとしては、教育課程編成委員会が機能するように、学校法人 村川学園の中長期的なビジョンを認識した上で計画的な人材育成と授業内容のカリキュラムの改善を提案できる環境を作る。

現場からの意見の汲み取りや、どこまでの業界を把握すればいいか等、どのような方法が当学園に適合しているかどうかを把握し、定着させるためにPDCAサイクルを回しながら検討を行う。

トップシェフ協議会を立ち上げ、業界を牽引する外部の意見をカリキュラム構築に反映させている。

#### 【学校関係者評価委員からの提言】

- ①食の業界として姿勢面を学校として正す。食材の価格や農場の方からの話、管理保管などを学校で指導することはできないか
- ②オーナーシェフを目指す学生には、原価計算ができることが必要。現実に見合った原価計算ができないといけないので現実味を帯びた授業が必要。
- ③トップシェフによる特別授業は、学生にとって良い学びに繋がる。
- ④卒業生と在校生の繋がりも重要である。
- ⑤インターネットでの販売においても、今後重要になってくるので良い取り組みであった。
- ⑥SDGs への取り組みとして、生産者と関わることで食の大切さを実感し、より商品開発に活かせる。

#### (4) 学修成果

(自己点検評価より抜粋)

4-15 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか  
就職内定率の向上のため、就職支援システムの導入や学生指導など、就職率の向上を図っている。

4-16 資格取得の向上が図られているか  
資格取得者数とその推移の状況については把握している。

4-17 退学率の低減が図られているか  
長期欠席者・欠席が目立つ者に関しては担任、学生、保護者の3者面談を実施し、家庭との連携をとり、学生の悩みをサポートして早期に対応している。

#### 【現状の課題点】

現状としては就職率や、学生の就職活動状況は把握できている。今後の課題としては在校生に就職に関する有用な情報を提供できる環境と、それらを村川学園のノウハウとして構築する体制が必要となる。

就職率の向上に加え、就職をゴールとした教育内容ではなく、当学園で習得した調理や製菓を通じた自己実現が社会のどのようなことに貢献できるのか、当学園が長期的なビジョンを描ける場の一つとなることが重要であると考えます。これらの課題を解決するために、卒業生の退職事由の把握、企業や卒業生からの意見を取り入れ、学生が学校に何を望んでいて、就職先ではどんな能力が求められているのかを的確に認識できるように努める。

退学率の低減に関しては、学校が楽しいと思わせる授業を目指すことが大切になる。一人ひとりの学生に対する理解のあり方を見直すことが必要になる。

**【学校関係者評価委員からの提言】**

- ①厳しさだけでは退学率の増加につながる。厳しくすると意欲が途絶える学生もいるため、1人1人に合わせた対応が必要。
- ②資格は再就職にも有利であるため、積極的に学生に取得を案内していく必要がある。

**(5) 学生支援**

(自己点検評価より抜粋)

5-18 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか  
担任が定期的に個別相談を行っている。

5-19 学生寮等、学生への生活環境への支援は行われているか  
初めての1人暮らしの場合でも安心できるように学校提携の学生会館がある。

5-20 保護者と適切に連携しているか

入学前保護者説明会の実施、入学後には、保護者通信、実習授業参観、三者面談を随時実施している。

5-21 卒業生への支援体制はあるか

新卒者の求人票と同様、既卒者の求人票も充実させ、再就職サポートを行っている。

**【現状の課題点】**

就職率向上は就職担当者の関わり方が大きい。担当者だけに頼ることなく、教職員全員が学生のフォローができるようにすることが課題である。

新型コロナウイルス感染症に対応するため、学事行事の変更が余儀なくされた。学校からの学事行事の変更に関する通知は、できるだけ早期にできるようには試みたが、大きく状況が変わることもあり、学事行事を変更する判断が難しい場面もあった。次年度以降は、想定されることを予測した上でスケジュールを設定し、なるべく頻繁な変更がないようにしていきたい。

**【学校関係者評価委員からの提言】**

- ①休んだ際に学校から連絡をいただいて、距離が近い関係で過ごせたことが有難かった。保護者としては、校是の中に夢が実現することを加味して作られていると感じた。夢が叶うと次の夢に繋がるので、とても良い校是だと感じた。
- ②就職支援の中で、学内企業説明会や企業ガイダンスにおいて、外部企業様が来られることもあり、また面接練習や就職試験についての勉強があった。礼儀、マナーの授業もあると良い。



- ③挨拶をしない教員もいるので、挨拶をするように教えることが重要。  
見えない相手への対応も重要になる。  
電話連絡についても、受話方法や話し方なども授業に取り入れると良い。
- ④若年層の退職が多く感じる。卒業生との繋がりもあった方が今後に役立つ。

## (6) 教育環境

(自己点検評価より抜粋)

6-22 施設・設備は、教育の必要性を十分対応できるよう整備されているか  
指定基準以上の教室数及び施設を充実させている。

6-23 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

ホテル、レストランでのインターンシップを実施している。海外研修は2021年度も新型コロナウイルス感染症蔓延のため、やむなく国内研修に切り替えた。国内研修では、沖縄研修旅行とミシュラン星付きレストランでの研修を行った。

6-24 防災に対する体制は整備されているか

非常災害に備えた防災に対する点検を頻繁に行い、安全対策には留意している。

### 【現状の課題点】

インターンシップの提携先に関しては今後、数を増やしていく予定だが、その選定に関しては慎重を要する。実習の質を落としてしまっただけでは何もならない。提携先の実習担当者との打合せ、学生の要望や就職先が求める能力を最優先の判断基準とし、現状の判断基準に囚われない、幅広い視野での選定を行う。

学生の授業に対する理解度を高める教育環境整備として、WiFi環境を整備し、Google Educationを導入し、新型コロナウイルス感染症蔓延によるオンライン授業への早期対応ができた。学科授業における課題提出や、掲示板機能による学校からの情報提供を行っている。

### 【学校関係者評価委員からの提言】

- ① Google Education の導入がコロナウイルス感染拡大前だったとのことで、先見の明があったと感じた。保護者対応にも良いと感じた。
- ② オンライン授業に関しては、オンラインでの長所と短所を織り交ぜた内容の発信をしていく。教員のサポートを充実させ、学生の理解度の上昇に繋げる必要がある。

## (7) 学生の募集と受け入れ

(自己点検評価より抜粋)

7-25 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか  
在校生の出身高校を中心に定期的に訪問をしている。

7-26 学生募集活動は適正に行われているか  
適正に行われている。

7-27 学生募集活動において、教育成果は適正に伝えられているか  
学校案内書やホームページ等に掲載している。教育効果の広報においては、入学希望者の参考になる情報提供をするという観点から、個別に受けた相談において事実を正確に伝えている。

### 【現状の課題点】

留学生、高校生の入学希望者の問い合わせへの対応、オープンキャンパスの受け入れ体制は整備しているが、入学を希望する高校生などの学費の問い合わせも多く、そのサポートの強化がより必要になってきている。保護者が学生の進学に対して相談しやすい体制を作る事が課題である。

新型コロナウイルス感染症による高校生への影響として、学校の知名度重視、東京・大阪などの都市に出ていくことへの不安、調理・製菓業界への不安を抱えている傾向にある。

### 【学校関係者評価委員からの提言】

- ① SNS を使用した学生募集を学内で考えてほしい。
- ② 東京と大阪では HP の内容量が異なる。大阪は内容が多く満腹になる。良い取り組みをしている。
- ③ 教育界も厳しい状態なので、教育の質を確保しつつ、学生募集を増やしていただければと思う。

## (8) 財務

(自己点検評価より抜粋)

8-28 中期的に学校基盤は安定しているといえるか  
各校とも入学者を確保できており予算に基づく適切な主旨のバランスが保持できている。

8-29 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。  
予算は計画に従って妥当に執行されている。

8-30 財務について会計監査が適正に行われているか。  
適切に行われている。

### 【現状の課題点】

理事会・評議員会における監事監査において適正であるとされている。事業報告書、監査報告書などはホームページ上で公開している。

### 【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 特に問題点は見受けられない。健全な運営をしていると評価する。

## (9) 法令等の遵守

(自己点検評価より抜粋)

9-31 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

法令遵守については、学園法人本部が主幹となり、適正に運営されている。

9-32 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

定期的に会議を実施し、個人情報の管理、学籍管理などの注意点を周知している。

9-33 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

年度末にセクションごとに改善点を見出すための自己点検・自己評価を実施しているが、今後は定期的に点検・評価を行って行きたい。

### 【現状の課題点】

今の状況では特に問題点は目立っていない。しかし情報管理、特に個人情報の取り扱いは一つ間違えると信頼の失墜につながる。現段階でも表に出ていないだけで問題がないとは言い切れない。今後もセキュリティに関しては教職員だけでなく、学生も含めて組織全体で意識を高めていく。

ハラスメント問題については、学内にハラスメント防止委員会を設置し、ハラスメント防止ガイドラインを設定している。専任の精神保健福祉士を置き、相談窓口を開設している。より広く学生に告知をし、問題点が上がりやすい環境整備が必要になる。

### 【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 特に問題点は見受けられない。健全な運営をしていると評価する。
- ② 私立学校法が改定され、管理のあり方は、一層厳しくなっている。健全な対応をされている。
- ③ 修学支援新制度の対象校であることをしっかり伝えてほしい

## (10) 社会貢献

(自己点検評価より抜粋)

社会貢献活動事例

<関東近県高等学校へ出張授業>

<家庭科教員研修会>

<地産地消の支援>

10-34 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

学生のボランティア活動に関してはすべてを把握しているわけではなく、活動に関する把握は不十分である。

### 【現状の課題点】

学園としては、社会福祉施設への支援、地産地消の取り組みなど **SDGs** の取り組みを実施している。今後も持続可能な項目についてより積極的に取り組んでいきたい。

### 【学校関係者評価委員からの提言】

①東日本大震災の際、電車が動かずに帰宅難民になった方が避難所として学校に避難していた。今後、災害時に避難者が来る可能性もあるので、対応策を検討すべきである。

②2050年には魚よりもクラゲが多くなるという報道があった。環境問題について発信すべきである。温暖化問題によって、北極付近の氷がすべて溶ける可能性があるという報道もあった。食分野として学校としてどのようなことができるかという視点を持っていただきたい。学校は地域の宝なので、意識をもつていただきたい。

③食に携わるものとして、社会貢献活動は実施しやすい。子ども食堂への寄付やケーキを一緒に作る活動もしているので、同じような動きをしているのだと実感した。継続が重要なのでぜひ継続的に実施してほしい。

これらの課題に対し委員から頂いた提言を真摯に受け止め、教職員一丸となり一つひとつ課題を解決し、業界を牽引する人材の輩出に取り組んでいく所存である。